

テーマ：日本環境史を学ぶために

関連の深いコース：ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

1. このテーマを学ぶために

環境問題は、近年発生したもののように思われがちですが、そうではありません。人々は古くからさまざまな環境問題に直面し、その都度試行錯誤しながら最善の対策をとってきました。つまり、環境問題の取り組みには長い歴史があるのです。その環境問題発生のメカニズムやその解決にむけた先人の取り組みを、それぞれの時代の政治・経済・文化と関連づけながら学び、現代の環境問題解決に資するのが環境歴史学（環境史学）という学問なのです。

さて、環境史を学ぶ目的には、大別してつぎの2つがあります。1つは、環境史を学ぶことによって、それにかかわる基礎的な素養を身につけ、さらに新たな人間と環境との歴史を究明することを目的とするものです。2つめは、現代の環境問題を解決する糸口を見出すために、環境史の教養を身につけることを目的とするものです。学習の目的は異なっても、環境史を理解しているかどうかは、現代の環境問題の解決に大きな影響を与えるのではないかと考えています。

それでは、環境の歴史はどのように学んでいくのでしょうか。たとえば、歴史的に人間は自然や動物とどのようにかかわってきたのか、あるいはわが国の歴史のうえでゴミ問題はいつごろから発生し、それに人間はどのように取り組んできたのか、という課題を設定しましょう。これらの歴史は、それぞれのテーマにそって歴史事実を明らかにしていく必要があります。そのためには、歴史資料（古文書、古文献、絵画、石造物など）の読解と分析が不可欠です。それらを通じて、新たな環境の歴史が判明するのです。

このほか、環境史の範囲は、現代的な課題ですが、歴史・文化の歩みのなかで残されてきた歴史遺産としての文化財（伝統的建造物群・天然記念物・文化的景観等）の保護にもおよびます。文化財の由緒やその保護の取り組みと課題を考え、私たちはこれまで残された文化財を未来に残していく対策を緊急に講じる必要があります。

この学部で、人間と環境との歴史を直接的に学ぶことができるのが**日本環境史論ⅠⅡ**です。ここでは、人間と自然とのかかわりの歴史を究明するテーマとして、開発と環境破壊、山林保全、動物保護、公害など、そして江戸の都市環境とのかかわりの歴史では、都市計画、ゴミ問題、物質循環、衣食住、医療、癒し空間などの実態把握とその取り組みを多様な視点から学習しています。その際、歴史資料の調査・読解・分析が欠かせません。なお、私の研究会を希望する学生は、**日本環境史論ⅠⅡ**を履修してください。

2. テーマに関連した推奨科目

まず、歴史の基礎を理解するために「市ヶ谷基盤科目」の**日本史ⅠⅡ**の履修をお勧めします。また、日本の環境の歴史と密接に関係する「専門科目(展開科目)」の推奨科目としては、**環境人類学ⅠⅡ**、**環境表象論ⅠⅡ**、**ヨーロッパ環境史論ⅠⅡ**、**環境倫理学ⅠⅡ**、**日本美術史論**、**仏教思想**などがあります。さらに、さまざまなテーマを現代の環境問題と関連づけて考えたい場合には、**自然環境論ⅡⅢ**、**環境社会論ⅠⅡⅢ**、**都市環境論ⅠⅡ**、**食と農の環境学ⅠⅡⅢ**、**地域経済論ⅠⅡ**などを履修しておくといでしょう。